

日中国際交流協會報

協會報第 2015-4 号 2015 年 4 月 10 日 発行所一般社団法人日中国際交流協會

編集人 長谷川隆淑・中村陽

3 月に特筆されるのは例年两会開催の報道、即ち日本の国会に相当する全国人民代表大会（全人代）第 12 期第 3 回会議と中国人民政治協商會議（政協）第 12 期第 3 回会議が北京の人民大会堂で、各々 4 月 5 日より開催されたことです。两会とも全国各地方を代表する代議員 3000 名前後が集い 10 日間の協議を通じ、14 年度の行政成果の承認と 15 年度の行政計画に対する賛否の決議が行われています。

特に全人代では国家主席・國務院総理（首相）の再信任、行政の國務院・司法の中央最高法院や中央最高檢察・中央軍事委員会など中央政府機関を監督する最高権力機関として位置付されている。従い國務院（首相）・中央最高法院長中央檢察院トップ・中央軍事委員会主任が各々 2014 年度の活動の成果を報告し、又今年度 2015 年度の運営計画を説明し、それら成果と計画につき全人代の評価と承認の議決を取つける事が義務付けられています。

これら義務付けられた報告は、國務院・中央最高法院・中央檢察院・軍事委員会は各々重複し似通った内容を提出しています。一番判りやすく総括されたものとして國務院の李克強首相の政府活動報告を取り上げてみました。しかし、その内容からして時折手引書として便利にご利用いただく為、別途に小冊子にまとめ各員へ郵便にてお届けする事にいたしました。

従い、本号では海江田会長の寄稿文だけのメール通信となります。

海江田万里の政経ダイアリー-2015.4.7 号

☆ 外国からの観光客の消費は拡大、日本人の消費は縮小 ☆

桜前線は北上中ですが、今年各地で目立ったのは中国人の花見客ではないでしょうか。花見に先立って中国の旧正月、春節の時期、日本全国での中国人の「爆

買い」の様子がマスコミを賑わしました。先日、日本政府観光局が発表した数字によると、今年の2月（春節の季節）に日本を訪れた中国人の観光客は35万9100人で、去年の2・6倍に上ったそうです。

去年1年間で訪日外国人が日本で行った消費支出は全体で2兆278億円。前年と比べて43・1%の増加です。中国人の消費はその4分の1を占めています。この調査で気になったのは、昨年日本を訪れたベトナム人一人あたりの消費額が23万7814円と中国人を抜いて第一位だったことです。といってもベトナム人旅行者の数は少なく、全体で12万4100人ですから消費総額は295億円にしかありません。

★ 一人当たりの消費はベトナム人がトップ ★

このことから、ベトナムからは一部の富裕層が日本に観光に来ていることが解ります。一方、中国の場合は、すでに一部の富裕層だけでなく、中産階級の人たちが訪日し始めたということではないでしょうか。中国の中産階級は年収150万～1000万円程度といわれていますが、この層の人口はおよそ7億人いると推定されますから、彼らが度々日本を訪問しだすと、日本の消費はさらに拡大します。

昨年1年間の訪日観光客の伸びを見ると、中国以外にはタイ、台湾、マレーシアとアジアの国々が並びます。

ただし、これら外国人の日本での消費は、内閣府が行う消費動向調査などには反映しません。観光客は日本国民ではないからです。現在のわが国では実質賃金のマイナスや、年金支給額の減額などにより国民の消費は落ち込んでいて、外国人観光客の消費が目覚ましく伸びているのが実際のところですが、日本の消費統計だけを見ては、消費の実態はわかりません。

★ アジア諸国の祭日を知る必要がある ★

これから日本は5月のゴールデンウィークを迎えますが、中国でも5月1日のメーデー（労働節）を挟んで連休がありますし、6月にも旧暦の端午節で3連休になります。タイも、ソンクラーン（旧正月、水かけ祭り）で4月13日から16日までの4連休。5月は1日のレイバーデー、5日の国王の戴冠記念日、9日の農耕祭、13日の仏様の誕生日まで休みが続きますからまだしばらく訪日外

国人は増え続きます。これからはこうしたアジア諸国の休祭日情報を知ること
も必要になってきます。

前衆議院議員 海江田万里

海江田万里事務所／民主党（東京1区）

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-11 山一ビル 6F

TEL.03-5363-6015 office@kaiedabanri.jp

FAX.03-3352-2877 <http://kaiedabanri.jp/>